


林業ミニ情報 No.142



平成29年7月

- 1 「コンテナ苗下刈り講習会」を開催1
(常陸太田林業指導所 寺田)

- 2 「NPO法人エコレン」と県とのコラボ第2弾が実施される！2
(水戸林業指導所 吉成)

- 3 石岡市で「木とこども展」が開催されました3
(土浦林業指導所 加藤)

タイトル	「コンテナ苗下刈り講習会」を開催
年月日	平成 29 年 7 月 10 日 (月)
場所	高萩市大能地内 「平成 28 年度コンテナ苗植栽実証事業施行地」
内容	<p>林業普及指導については、現在、重点推進課題を 4 課題設定し、課題毎に事務所を横断したチームを編成しており、スギコンテナ苗に係るチームでは、「低コスト再造林の普及」を課題に各種の活動を展開しています。(チーム名：チームコンテナ)</p> <p>スギコンテナ苗は、裸苗と比較して施行性が高く、植栽可能な時期が長くとれるため、再造林作業の効率化が期待されています。しかし、本県では民有林における本格的な導入実績が無く、県において実証試験が始まった段階であり、コンテナ苗の普及が十分ではありません。</p> <p>このため、林業技術センター研究員と連携し、苗木生産者に対する育苗技術の指導等を行っています。</p> <p>その一環として、コンテナ苗植栽後の生育状況を調査するとともに、下刈りが裸苗植栽地と差異があるかを比較するため、県林業技術センター専門技術指導員 2 名、茨城県林業種苗協同組合 1 名、スギコンテナ苗生産者 4 名、森林所有者 1 名、チーム員 6 名の計 14 名が参加し、下刈り体験と当該地の森林所有者との意見交換を行いました。</p> <div data-bbox="427 1227 1428 1608">  </div> <p style="text-align: center;">下刈り体験の様子 森林所有者との意見交換の様子</p>
普及成果	<p>下刈りは草が繁茂しないうちは植栽木を判別できるが、ある程度成長するまでは誤伐に注意を要すること。また森林所有者がスギコンテナ苗に期待することや、改善を要望する事項等が把握でき、今後検討するべき課題や改善するべき方向性の明確化が図られました。</p> <p>今後は先進地の視察や関係者と意見交換等を行うとともに、コンテナ苗実証試験地調査を継続して実施することで、育苗技術に係る更なる指導と普及啓発の強化に努めてまいります。</p>

<p>タイトル</p>	<p>「NPO法人エコレン」と県とのコラボ第2弾が実施される！</p>
<p>年月日</p>	<p>平成 29 年 7 月 29 日 (土)</p>
<p>場所</p>	<p>ひたちなか市馬渡「国営ひたち海浜公園」そよかぜドーム</p>
<p>内容</p>	<p>県内各地で地球温暖化防止活動を行っている「特定非営利活動法人エコレン」(山口博之理事長)とのコラボ第2弾であるエコMY箸づくりを、来園者を対象に実施しました。</p> <p>当日は、夏休みに入って2週目で、午前9時の開園と同時に多くの人出で賑わいました。</p> <p>エコMY箸づくりは5月のいばらき都市緑化フェスティバルに第1弾を実施していますが、募集枠を大きく上回る参加者があり、今回は当指導所職員を含め10名のスタッフで対応しました。当日受付として、午前30組、午後30組の募集枠を設定しましたが、茨城県で生産されたヒノキ材に興味を抱いた県内外からの見学者が次々と集まり、参加希望者が続いた結果、募集枠を大きく上回る109組の参加者となりました。</p> <p>夏休み期間中のため、家族連れの参加者が多く、三世代での参加者も多くみられました。初めてカンナかけや、紙やすりでのMY箸加工に、汗だくになりながらも、MY箸づくりに没頭しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="422 1191 901 1552">  </div> <div data-bbox="922 1200 1401 1559">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="539 1574 767 1608"> <p>かんながけの様子</p> </div> <div data-bbox="1023 1574 1294 1608"> <p>森林湖沼環境税のPR</p> </div> </div>
<p>普及成果</p>	<p>参加者からは、「茨城県では森林湖沼環境税を使って素晴らしいイベントをやっている」「次はいつやるのか、また参加したい」「ヒノキの香りがすごい」「かんなくずをお風呂に入りたい、車にも置きたい」など、様々な意見、要望をいただきました。</p> <p>今回は、ひたち海浜公園でのNPOエコレンとのコラボ第2弾でしたが、県外の参加者にも森林湖沼環境税やイベントの紹介をより多くの方々に広報できました。今後も引き続き、地球温暖化防止の一役となる森林の整備の推進につなげるための活動を続けていきます。</p>

タイトル	石岡市で「木とこども展」が開催されました
年月日	平成 29 年 6 月 15 日 (木) から 6 月 25 日 (日) まで (6 月 18 日 (月) から 6 月 20 日 (水) は休み) 8 日間
場所	石岡市瓦谷 ログハウスの展示スペース「こんこんギャラリー」
内容	<p>地元木作家による作品の展示・販売とともに、親子で森の中につくられた遊び場や木の食器やイスに触れ、森や木に親しんでもらうことを目的として、「木とこども展」が開催されました。</p> <p>企画したのは、地元製材所職員の廣野匠氏をはじめとする「やさとウッドスタート実行委員会」で、地元の木作家 7 人や林業・木材業等の関係者の協力を得て、今回初めて開催されました。</p> <p>木工作品では、スプーンやお皿などの食器、こども用の椅子、おもちゃ等、デザインの良さや使いやすさはもちろん、木のぬくもりを感じられる作品が展示されました。また、木のおさじ体験（素材そのまま、オイル仕上げ、漆仕上げのものそれぞれを口に入れて感触の違いを感じる）や、端材を使用した木工工作体験が行われました。</p> <p>一方、森の中の体験では、巨大なノコギリを使った丸太切り、立木にぶら下げたブランコや滑車ロープ、篠藪のトンネル、馬の林内散策などがあり、子ども達は時間を忘れて夢中で遊んでいました。</p> <p>親子で楽しんでもらえる企画として、地元以外からも参加があり、8 日間の開催期間で、延べ約 1,000 人の方が来場されました。</p>



木製食器の展示



木工工作の様子

普及成果

主催した廣野氏は、「山を手入れし、地元子ども達が山に入れる機会を作ることと、暮らしの中に木の利用が根付いてくれば、地元の森や木のファンが増えると考えて開催した。来年はもっと良い企画にしていきたい。」と、すでに来年に向けての意気込みを語られました。

今回の「木とこども展」は、当林業指導所で、昨年から石岡市内の林業、木材業関係の若手に働きかけ、地域の木材利用を進めるための検討を一緒に行っているメンバーが中心となって進めており、今後もこのような活動を続けて、森林や木への関心を高めていけるよう連携していきたいと考えております。